

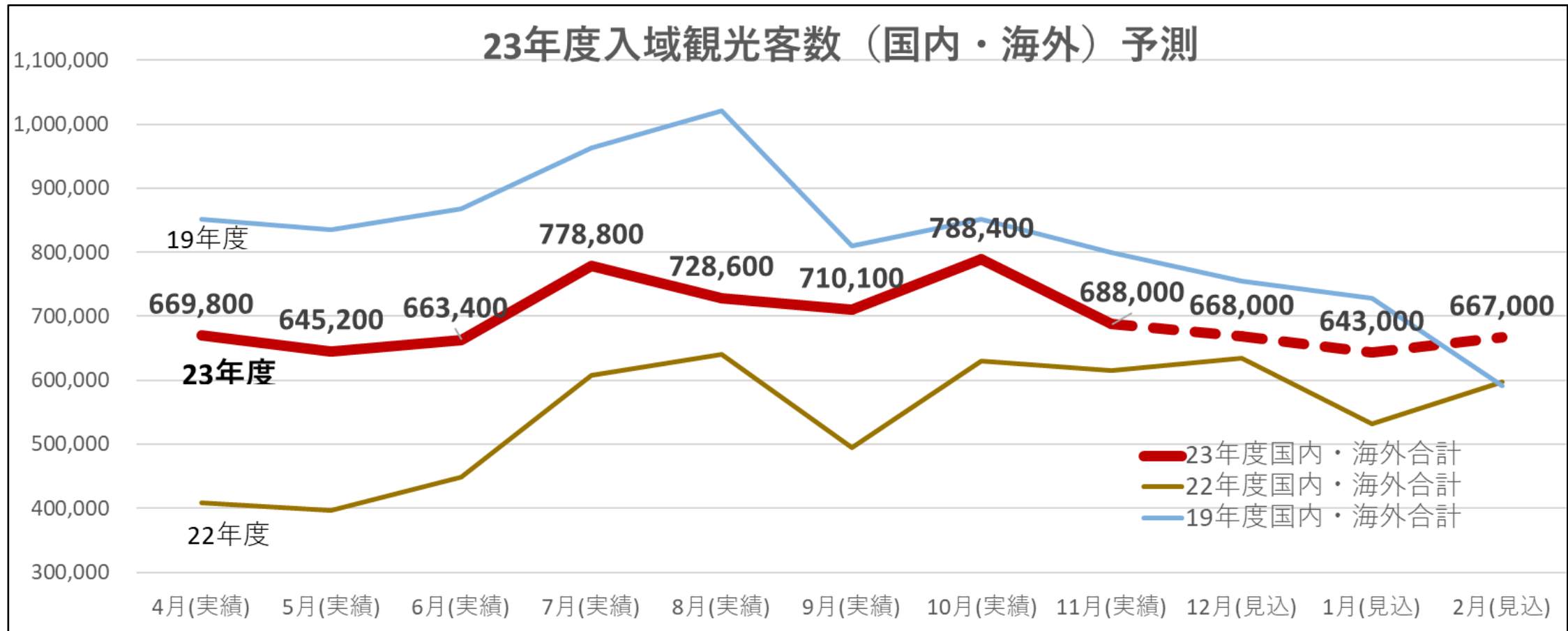
入域観光客数概況(23年11月実績および12月～2月見通し)

2023年12月25日
OCVB

1. 入域観光客数概況(23年11月実績および12月～2月見通し)

	4月(実績)	5月(実績)	6月(実績)	7月(実績)	8月(実績)	9月(実績)	10月(実績)	11月(実績)	12月(見込)	1月(見込)	2月(見込)	12-2月計
23年度国内(空路)	601,700	564,200	577,300	654,900	628,700	599,700	667,600	595,400	580,000	540,000	540,000	1,660,000
23年度国内(海路)	1,400	11,100	8,400	8,700	3,500	3,800	5,300	1,700	4,000	3,000	5,000	12,000
23年度国内合計	603,100	575,300	585,700	663,600	632,200	603,500	672,900	597,100	584,000	543,000	545,000	1,672,000
23年度海外(空路)	60,200	63,300	68,100	80,300	71,600	79,600	79,000	77,300	80,000	87,000	82,000	249,000
23年度海外(海路)	6,500	6,600	9,600	34,900	24,800	27,000	36,500	13,600	4,000	13,000	40,000	57,000
23年度海外合計	66,700	69,900	77,700	115,200	96,400	106,600	115,500	90,900	84,000	100,000	122,000	306,000
23年度国内・海外合計	669,800	645,200	663,400	778,800	728,600	710,100	788,400	688,000	668,000	643,000	667,000	1,978,000
22年度対比(国内・海外)	163.8%	162.6%	147.9%	128.1%	113.7%	143.5%	125.0%	111.9%	105.2%	120.8%	111.6%	112.1%
19年度対比(国内・海外)	78.7%	77.3%	76.4%	80.8%	71.3%	87.7%	92.6%	86.1%	88.5%	88.3%	112.9%	95.4%
23年度国内空路/19年度国内空路	100.9%	101.4%	102.1%	100.2%	85.4%	101.8%	108.5%	99.9%	102.5%	101.5%	102.5%	102.1%
23年度国内海路/19年度国内海路	28.0%	108.8%	200.0%	126.1%	145.8%	292.3%	94.6%	42.5%	59.7%	136.4%	94.3%	101.7%
23年度国内合計/19年度国内合計	100.3%	101.6%	102.8%	100.4%	85.6%	102.2%	108.4%	99.5%	102.0%	101.6%	102.8%	102.1%
23年度海外空路/19年度海外空路	40.6%	39.0%	40.1%	46.1%	47.7%	65.9%	64.2%	79.0%	76.2%	71.4%	59.1%	68.1%
23年度海外海路/19年度海外海路	6.4%	6.2%	7.5%	27.1%	18.7%	27.6%	34.0%	13.4%	5.2%	18.2%	39.5%	22.8%
23年度海外合計/19年度海外合計	26.6%	26.0%	26.0%	38.0%	34.1%	48.7%	50.1%	45.7%	46.1%	51.7%	50.8%	49.7%

※2月の国内海路、海外空路、海外海路については19年2月と比較(コロナの影響を受けているため)



1. 入域観光客数概況(23年11月実績および12月～2月見通し)

(概況)

国内入域については年末年始にかけて宮古・石垣を含む東京・大阪発沖縄路線の需要が高いこと、県内各地で開催されるマラソン大会やプロ野球・プロサッカーキャンプなどのスポーツイベントの開催により、旅行需要は引き続き好調に推移すると見込まれる。

海外入域については、空路は特に台北、韓国仁川、香港路線については予約が堅調に推移しているほか、1月以降の台北路線の増便および高雄路線の運航再開、上海路線の増便等により空路入域客数に関してはコロナ前の7割程度の水準まで回復する見込み。

海路は、12月以降も引き続き台湾や中国(上海・厦門・香港)などから入港が予定されているが、入域客数はコロナ前の3割弱の水準となる見通し。

なお、年間入域観光客数の見通し(23年暦年)は先月発表時点から2,000人減って、823万9,500人となる見通し。

(詳細)

・12月:【国内】(空路)コロナ前とほぼ同水準の58万人(19年12月対比 102.5%)と見込む。特に宮古・石垣を含む東京・大阪発沖縄路線の需要が高い。
(海路)横浜港から1回入港予定。入域客数は0.4万人(19年12月対比 59.7%)となる見通し。

【海外】(空路)北京那覇路線(中国国際航空)運航再開(12月23日～水・土曜のみ)により入域客数は8万人(19年12月対比 76.2%)となる見通し。
(海路)厦門1回、香港1回の合計2回入港予定。入域客数は0.4万人(19年12月対比 5.2%)となる見通し。

・1月:【国内】(空路)コロナ前とほぼ同水準の54万人(20年1月対比 101.5%)と見込む。
(海路)横浜港から1回入港予定。入域客数は0.3万人(20年1月対比 136.4%)となる見通し。

【海外】(空路)台湾路線(台北・高雄)の増便・運航再開や上海路線の増便により入域客数は8.7万人(20年1月対比 71.4%)となる見通し。

・台北那覇路線◆チャイナエアライン:1月1日から火・木・土・日曜のみ1日2往復へ増便

・高雄那覇路線◆チャイナエアライン:1月1日から月・水・金曜のみ運航 ◆タイガーエアー1月16日から1日1往復運航(2月14日まで)

・上海那覇路線◆中国東方航空:1月26日から水・土曜のみ1日2往復へ増便 ◆中国春秋航空 1月26日より新規就航(月・水・金・日曜)

◆上海吉祥航空 1月31日まで運休

(海路)中国(上海、香港)より2回入港予定。入域客数は1.3万人(20年1月対比 18.2%)となる見通し。

・2月:【国内】(空路)コロナ前とほぼ同水準の54万人(20年2月対比 102.5%)と見込む。
(海路)入域客数は0.5万人(19年2月対比 94.3%)となる見通し。

【海外】(空路)入域客数は8.2万人(19年2月対比 59.1%)となる見通し。

(海路)香港や上海などから計9回入港予定。入域客数は4万人(19年2月対比 39.5%)となる見通し。

令和5年12月25日（月）

2023年OCVB重大ニュース

●新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類感染症に移行と結果

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類感染症に移行したことで、前年度までのような行動制限がなくなったこととあわせ、全国旅行支援の延長や集客力の高い各種イベントが通常開催されたことにより、人流が活発化しました。

●入域観光客数の回復

国内入域観光客数は、修学旅行・MICEともに順調に回復傾向にあり、コロナ前とほぼ同水準まで回復し、旅行需要は堅調に推移しました。

海外においても、航空路線は17社が7路線合計で週135便まで回復、クルーズでも外航クルーズの再開もありました。

●慢性的な人材不足

全国的に「人手不足」が問題となっており、県内においても顕在化しています。

空港、ホテル、観光バス、タクシー等、観光業界でも人手が足りず、観光客を受け入れたくても受け入れられないという状況が各地で起きています。各社待遇の改善や、外国人労働者の雇用など様々な自社努力を行っているが、抜本的な解決にまでは至っていません。

6月2日

●長野県観光振興機構とのMOU締結

日本を代表する「山岳高原リゾートの信州」と「海洋文化リゾートの沖縄」という対極にある強みやそれぞれの魅力ある環境・資源を活かし、長野県並びに沖縄県の観光産業の振興や観光地域づくりの推進を担う我々DMO同士が連携協定を結び、「観光」を切り口とした取り組みを連携強化し、両県の観光産業の振興と地域社会の発展に向けて取り組んでいます。

7月29日

●第20回新宿エイサーまつり開催

2002年にスタートした新宿エイサーまつりが今年20回目を迎え新宿の町を沖縄で彩りました。昨年は規模を縮小しての開催でしたが、今年は夜のエイサー演舞も復活し、うるま市の屋慶名青年会を含む県外エイサー団体など23団体がエイサーを披露して会場を盛り上げました。

また、周辺の施設では沖縄関連のコンテンツも数多く紹介され、新宿と沖縄が一体となり、約80万人の観客数を記録しました。

8月上旬

●台風第6号の襲来による観光産業に大きな影響

2023年7月28日3時にフィリピンの東で発生した台風第6号は、長期に渡り、沖縄地方へ大きな影響をもたらしました。台風の長期化・停電・断水・道路の寸断・相次ぐ欠航便による帰宅困難者の発生など、想定以上の被害が相次いだことを受け、観光業界の被害状況を鑑み、当財団において台風6号に関する被害実態調査を実施しました。本調査結果を基に、沖縄ツーリズム産業団体協議会より沖縄県へ要請を行いました。

8月～

●観光目的税(宿泊税)導入に関する取り組み

沖縄県が2026年度(令和8年度)からの導入を計画している宿泊税の検討にあたって、沖縄観光の発展に寄与する制度となるよう、業界とのワーキンググループや沖縄ツーリズム産業団体協議会からの意見を取りまとめ、意見書として沖縄県へ手交しました(11月8日)。意見書では、用途を明確にすることや県と観光業界が定期的に話し合う協議会を開いて議論することなど、直接的な関係者である観光業界の意見を踏まえた制度の設計を求めました。

8月～9月

●FIBAバスケットボールワールドカップ(FBWC2023)の沖縄開催

8月25日(金)～9月3日(日)に沖縄アリーナで開催されたFIBAバスケットボールワールドカップ(FBWC2023)において、OCVBは大会までの約2年間、FBWC2023日本組織委員会・沖縄県など各関連団体と連携しながら、県内外で沖縄大会の周知及び誘客促進を図りました。また、誘客のみならず、会場近隣の交通規制情報やシャトルバス運行状況、ファンゾーン案内や観戦と併せて楽しめる沖縄観光情報等、来沖される観戦者へ交通情報や沖縄観光を楽しんで頂けるような情報発信を行いました。それらの取り組みに対してFBWC2023日本組織委員会より感謝状が授与されました。

<https://www.ocvb.or.jp/topics/4182>

9月1日

●「おきなわ観光地域カルテ」試作版提供開始

OCVBでは、株式会社ブログウォッチャーおよび国立大学法人琉球大学3研究室とともに、沖縄県における観光客(県外のみ)の人流データを分析、市町村別×月別にわかりやすく可視化した観光マーケティングレポート「おきなわ観光地域カルテ」プロトタイプ版(試作版)を開発しました。

10月4日

●沖縄観光親善大使制度の見直し

OCVBでは、2023年度より「沖縄観光親善大使ミス沖縄」を休止していましたが、新たな形での観光PRのあるべき姿を目指すため、外部有識者による検討委員会を設置し、6月、8月、9月と3回の検討委員会を開催しました。2023年10月に提言書の手交を受け、新たな観光大使制度の検討を開始しています。

10月30日

●「Adventure Week in OKINAWA」沖縄開催決定

日本政府観光局（JNTO）は、Adventure Travel Trade Association（ATTA）と連携し、2024年度に沖縄において「Adventure Week」を開催することを決定しました。「Adventure Week」とは、ATTAが定める基準を満たした特定の地域において、ATTAが厳選した旅行会社、メディア関係者が実際に開催地のアドベンチャートラベル（AT）商品を体験し、地域との商談会を通じ、商品のさらなる磨き上げを目的としたプログラムです。

11月14日

●観光危機管理運用図上訓練において初の「帰宅支援対策」を実施

観光危機管理運用図上訓練で初となる帰宅支援に特化した図上訓練を実施しました。帰宅困難観光客をどのように帰宅させるかをテーマに掲げ、那覇空港からの航空機での帰宅方法のほか、分散型帰宅支援の実現可能性を図るため、本部港から船で帰宅させる手段も検討しました。またこの訓練の中では、沖縄県が被害状況や輸送能力を鑑みて帰宅支援計画を策定し、マスコミを通じて発信する模擬記者会見訓練も実施しました。

12月7日

●ハワイマウイ島山火事に対する支援金をハワイ州観光局日本支局へ寄付

去る8月8日にハワイのマウイ島西部で発生した山火事を受け、沖縄観光はハワイを参考に様々な取り組みについて進めてきたという交流の歴史を鑑み、1日も早いマウイ島の復旧や人道支援に役立てていただくため、OCVB賛助会員及び県内観光業界を中心に8月25日より支援金を募集してきました。これまでに寄せられた多くの関係団体や企業、個人からの善意の支援金を「ハワイ州観光局日本支局」を通して「マウイストロング基金」に寄付いたしました。

贈呈式：2023年12月7日（木）

贈呈金額：250万円

●OCVB推薦の各種功労者表彰の受賞について

- ①日本観光振興協会 観光振興事業功労者 6月13日
宮里 政欣 氏（沖縄ツアーリスト相談役）
- ②沖縄県観光功労者 8月17日
（個人）：天久 広美 氏（沖縄県バス協会）
（団体）：沖縄県観光ボランティア友の会
- ③沖縄県功労賞表彰 11月3日
「観光振興部門」：大城 孝心 氏（沖縄県バス協会）

令和5年12月25日（月）

スペイン旅行会社ファムツアーの実施について（報告）

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下 OCVB）は、沖縄県より沖縄観光グローバル事業を受託しており、その一環として日本航空マドリッド支店と連携し、スペインの旅行会社を招いたファムツアーを実施しました。

欧州はアジア諸国と比較して訪日未経験者が多いことから、沖縄を含む国内地方都市の認知度が低いことが長く課題となっていました。OCVB はスペインにおける沖縄の認知度向上を目的に、2020 年から日本航空と連携し、同社の航空路線を活用した誘客プロモーションを行ってきましたが、この度、アフターコロナの世界的な旅行の再開を機会と捉え現地の旅行会社を招へいし、県内観光地の視察や工芸、食文化を体験いただき、情報のアップデートを図りました。今後も欧州路線を活用した航空会社との連携を強化するとともに、テーマ別観光を促進いたします。

【概要】

名称：スペイン旅行会社ファムツアー

日時：2023年12月11日（月）～12月13日（水）

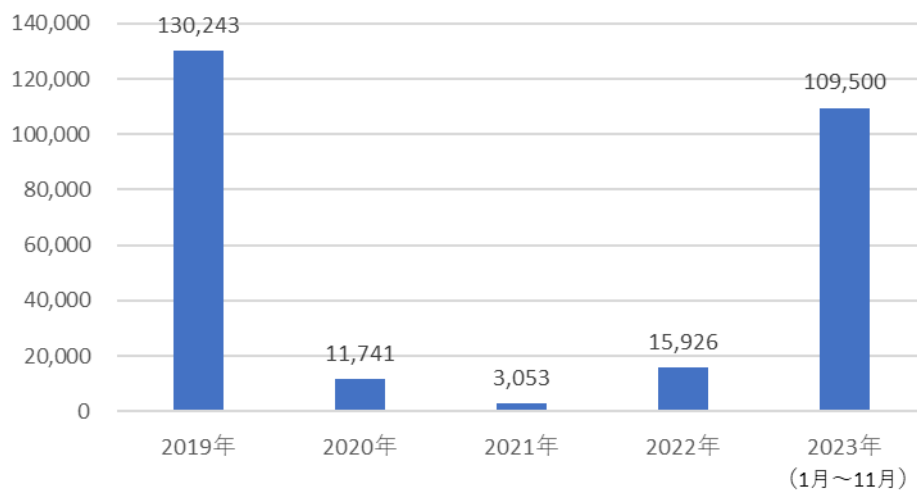
来沖者：スペイン旅行会社12社12名

視察先：首里城、サンゴ染め体験、やちむんの里、海洋博公園、平和祈念公園など

【参加者の感想】

- ・スペイン人はビーチリゾート好きが多い。沖縄のビーチは素晴らしいがこの時期は泳げないのが残念。季節に応じて文化、自然体験と合わせて魅力を訴求する方が良い。
- ・沖縄の食べ物（素材、味）はスペイン人に親和性がある。しかも日本食とはかなり違うので、ガストロノミーツーリズムは非常に人気が出ると思う。
- ・旅行先の歴史に興味を持つスペイン人は多いので、平和祈念資料をはじめとした戦争関連施設の訪問は意義がある。
- ・訪日旅行における訪問先の1つとするには、東京からの移動時間はネックになる。広くPRするのではなく、ターゲットの明確化や旅のテーマ設定により、スペイン人に対し沖縄旅行へのモチベーションを喚起できると思う。
- ・スペイン語の通訳ガイドがいると良い。

スペインからの訪日旅行者数



JNTO公表データ



【お問い合わせ先】

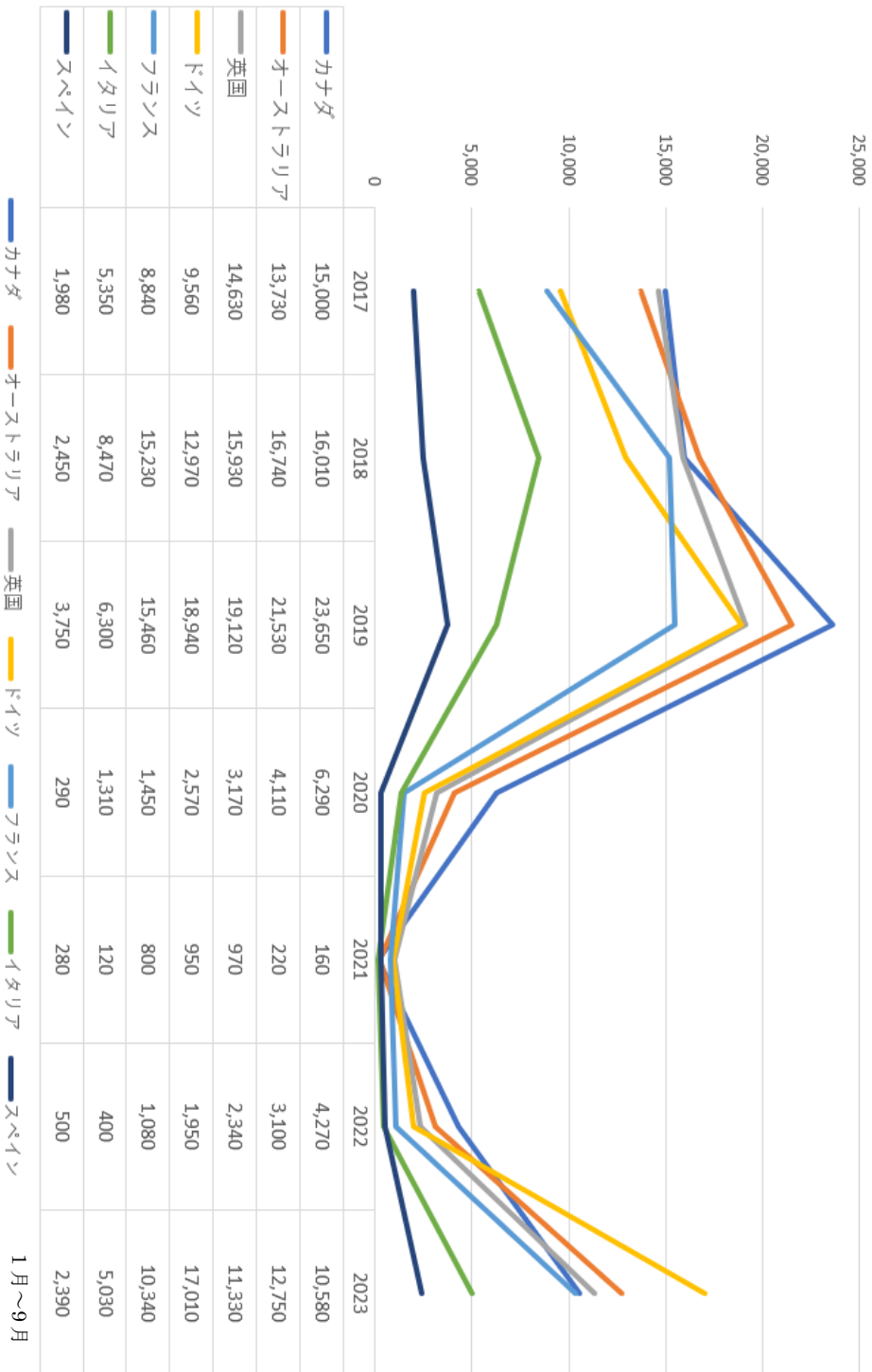
(一財) 沖縄観光コンベンションビューロー

海外・MICE 部 海外プロモーション課 担当：飯島・山城

TEL:098-859-6127 FAX: 098-859-6221

Mail: okinawatourism@ocvb.or.jp

沖縄県_欧米豪延べ宿泊者数_年次推移 (暦年)



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」※2023年は2次速報値
 ※米国は数が多く比較に不向きなため省略
 ※施設所在地(47区分及び運輸高等)・国籍(出身地)(21区分)別外国人延べ宿泊者数(従業者数10人以上の施設) 1月～9月

令和5年12月25日（月）

沖縄修学旅行の現状と取り組み

沖縄県における修学旅行について、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー（会長：下地芳郎、以下 OCVB）で行った調査によると、今年度の修学旅行入込数はコロナ前と比較し約8割程度まで回復してきております。

一方で修学旅行繁忙時期の10月～12月において、人材不足におけるバス運転手、ガイド不足等の課題もでてきており、OCVBでは関係機関との連携の上、下記の取り組みを実施してまいりました。

これまでの取り組み

- ・現状把握および課題確認のため県内大手バス会社及びバス協会、旅行会社へのヒアリングを実施
- ・沖縄県バス協会および会員企業に対し、沖縄県が実施している活用可能な支援事業（観光人材マッチング支援事業、観光事業者受入体制再構築支援事業）の説明会および意見交換会を実施
- ・沖縄県が10月に立ち上げた「修学旅行貸切バス等受入体制緊急支援事業」の説明会を県内バス会社および旅行会社向けに実施

※12/21時点のヒアリング結果：10-12月の修学旅行における移動手段未手配 なし

今後の取り組み

- ・バスドライバー不足問題について、一連の経緯や最終的な問題収束までのプロセスを各旅行会社・バス会社等関係各社とともに検証する。
- ・次年度に向けて早期に予約状況及び稼働可能バス台数等を確認し、沖縄県、バス会社、旅行会社その他関係機関との密な連携を図り、必要な対策を協議する合同会議の場を設ける。
- ・旅行主催者および旅行会社に対し、バス予約の重複や手配漏れをなくすため、3か月ルールの再徹底等早期の旅行行程確定への理解・協力を呼びかける。

バスガイド不足に伴う新たな取り組みについて

OCVB が沖縄県受託事業として昨年度実施した「令和 4 年度教育旅行推進強化事業」において、修学旅行時のバスガイド不足解消につなげるため、県内の芸人をバスガイドに起用し開催したモニターツアーを実施しました。本取組がきっかけとなり、那覇バス株式会社の定期観光バスで芸人バスガイドが本格稼働することとなりました。定期観光を担当するバスガイドを多様な業種から確保することで人材のゆとりが生まれ、修学旅行繁忙期のバスガイド不足解消にもつながると考えております。詳細については別紙をご覧ください。

【参考】2023 年度（令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月）の修学旅行見込入込数

※12 月 5 日時点、旅行社 15 社中 7 社からの回答により推計（OCVB 調査）

※2018 年度・2022 年度修学旅行入込実績（沖縄県観光政策課発表の修学旅行入込実績、2023 年度 OCVB 調査による入込見込み数を掲載

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018 年度	校数	218	429	217	27	1	67	382	389	386	122	104	86	2,428
	人数	26,033	54,779	34,575	3,253	37	11,698	80,400	85,195	71,947	24,641	15,738	15,185	423,481
2022 年度	校数	66	97	101	25	1	40	292	324	272	86	86	92	1,482
	人数	9,166	13,731	14,697	3,580	9	7,179	55,182	65,892	49,178	14,952	15,301	15,264	264,131
2023 年度	校数	113	283	159	22	4	39	314	361	273	80	90	66	1,804
	人数	14,750	36,745	26,194	2,797	165	6,747	64,891	80,722	50,816	14,470	16,884	11,861	327,042

【お問い合わせ先】

（一財）沖縄観光コンベンションビューロー

国内事業部 受入推進課

担当：屋宜

TEL：098-859-6129

FAX：098-859-6221

Mail：shuryo@ocvb.or.jp

那覇バス×よしもとエンタテインメント沖縄

芸人バスガイドが初始動！！

沖縄県の“バスガイド人手不足問題”に吉本芸人が取り組む！

--取材のご案内--



この度、よしもとエンタテインメント沖縄と那覇バスがタッグを組み、12月11日(月)よりオリオンリーグ玉代勢・島袋忍の2名が芸人バスガイドとしての稼働を開始いたします。

本件は、沖縄県内で社会課題とされてきた“バスガイドの人手不足問題”解決の実現を目指す取り組みとして、沖縄県からの受託事業で（一財）沖縄観光コンベンションビューローが実施した「令和4年度教育旅行推進強化事業」の一環で行った「沖縄修学旅行モニターツアー」から始まりました。

そして、今年度9月より那覇バスのガイド指導員による研修を開始し、試験を通過した2人が芸人バスガイドとして毎週月曜日、水曜日、金曜日の日程で「那覇バス定期観光Cコース（南国パラダイス東南植物楽園エンジョイコース）」をバスガイドとしてご案内します。

媒体の皆様におかれましては忙しい折とは存じますが、是非取材を賜りますようお願い申し上げます。

内容詳細

コース：那覇バス定期観光Cコース（南国パラダイス東南植物楽園エンジョイコース）

那覇BT

8:45発



那覇BT

16:00着

芸人バスガイド乗車日：12月11日(月)～毎週月・水・金

コース紹介動画



公式サイト



オリオンリーグ玉代勢



（プロフィール）NSC東京校 6期。2010年6月に堀川剛とオリオンリーグを結成する。趣味は三線。芸人エイサー団体「吉本橙風太鼓」では地謡として唄三線を担当する。

コメント：東京で20年活動して3年前に拠点を沖縄に移しました。長く東京にいたのでバスガイドを通して自分自身知らなかった沖縄の魅力を勉強しながら、笑って観光できるガイドを目指していきたいと思います。ちばるよー！！

島袋忍



（プロフィール）NSC沖縄（IBYOEC）3期。ピン芸人。手話コメディ「劇団アラマンダ」座員として活動しながら、芸人エイサー団体「吉本橙風太鼓」では大太鼓を担当する。

コメント：僕は沖縄で生まれ沖縄で育って28年、沖縄の事はある程度知っているつもりでしたがバスガイドの研修を受けて自分が知らない沖縄を知る事が出来ました！県外のお客様にはまだ知られていない沖縄の歴史、芸術、文化の魅力をお伝えし、また来たくなるようなご案内が出来ればと思います！

《取材のお問い合わせ先》

株式会社よしもとエンタテインメント沖縄

担当：神谷 TEL:098-861-5141 携帯:080-8524-4728 メールアドレス:kamiya.rumi@yoshimoto.co.jp

令和 5 年 12 月 25 日(月)

報道各社各位

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
会長 下地 芳郎
(公印省略)

報道取材依頼書

沖縄キリスト教学院大学との包括連携協定調印式 取材のご対応について(ご依頼)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本県の観光・コンベンション振興につきましては、平素から格別なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー(会長:下地芳郎、以下 OCVB)は、人的交流を深めることにより、教育・研究・地域・社会貢献等の分野で協力し、活力ある個性豊かな人材育成並びに沖縄県の観光産業振興に寄与することを目的に、沖縄キリスト教学院大学(学長:金 永秀氏)と、包括連携・協力に関する協定を締結します。

沖縄キリスト教学院大学では、令和 6 年度 4 月より「観光文化学科」(定員:90 名)が新設され、「文化資源」「ホスピタリティ」「持続可能」の 3 つの領域で観光について探求し、新たな価値・魅力の創造や、持続可能な文化・観光の発展に貢献できる力を身につけた人材の育成・輩出が期待されます。

沖縄観光業界の真の回復・発展において、「人手不足」が大きな課題となる中、OCVB では、人材育成の場として大きな役割を持つ沖縄キリスト教学院大学との連携協定を結ぶことで、さらなる観光振興・人材不足の解消に貢献していきます。

ご多忙の折恐縮に存じますが、取材についてご検討お願い申し上げます。

敬具

記

■詳細

名称:沖縄キリスト教学院大学との包括連携協定の調印式

日時:令和 6 年 1 月 10 日(水)14:00~

場所:沖縄キリスト教学院大学構内 ユニオン(西原町字翁長 777 番地)

備考:取材をご希望される場合はお手数ですが下記連絡先までご連絡ください。

【お問い合わせ先】

(一財)沖縄観光コンベンションビューロー

部署名:総務部 総務・経理課 担当:玉城・具志堅

TEL:098-859-6124 FAX:098-859-6221

Mail:pr@ocvb.or.jp

令和5年12月22日(金)

報道各社各位

一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー
会長 下地 芳郎
(公印省略)

報道取材依頼書

2024年「沖縄観光新春の集い」取材のご対応について(ご依頼)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本県の観光・コンベンション振興につきましては、平素から格別なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー(会長:下地芳郎、以下OCVB)では、2024年の新年を迎えるにあたり、観光関連業界及び関係機関の皆様が一堂に会する恒例の「沖縄観光新春の集い」を下記の通り開催いたします。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年までは規模を縮小して開催してはりましたが、今回はコロナ禍前と同規模での開催を予定しております。

ご多忙の折恐縮に存じますが、取材についてご検討お願い申し上げます。

敬具

記

■詳細

名称:2024年「沖縄観光新春の集い」

日時:令和6年1月4日(木) 12時00分~13時30分

場所:パシフィックホテル沖縄 2階「万座の間」(沖縄県那覇市西3-6-1)

次第:

- 1) 幕開け 琉球舞踊
- 2) 主催者挨拶
- 3) 来賓者挨拶
- 4) 鏡開き
- 5) 乾杯の音頭
- 6) 懇談
- 7) 中締め

備考:取材をご希望される方は、12月26日(火)17時までに、

下記お申込みフォームに必要事項をご入力の上お申し込みください。

<https://forms.office.com/r/aVRS5q0fru>



【お問い合わせ先】

(一財)沖縄観光コンベンションビューロー

部署名:総務部 総務・経理課 担当:玉城、志伊良、具志堅、宮城

TEL:098-859-6124 FAX:098-859-6221